

行革の成果を「明日」へ投資！

「選択と集中」で未来を創造！

勝山市の行財政改革で目指してきたことは、決して「経費の削減」だけではありません。新しい市民ニーズに対応した夢のあるまちを目指し、市民サービスの向上を図るため、平成16年度から平成18年度までの3か年、積極的に政策の推進を図りました。

『明日』を創る子育て支援を推進

児童センターの開館時間の大幅延長による放課後児童対策の推進をはじめ、児童手当や乳幼児医療費無料化制度の拡充など、各種子育て支援策を充実しています。



まちなか整備でふるさとルネッサンス



市民の悲願であった中心市街地の活性化に向け、旧城下町の風情を活かし、大清水広場の整備、散策路の整備、旧機業場の保存に向けた取り組みを進めています。

白山文化交流都市・恐竜王国勝山



勝山市が世界に誇る遺産、世界遺産登録国内暫定リスト入りを目指す「白山平泉寺」や日本一の産出量を誇る恐竜化石を活かした「恐竜王国勝山」に関する取り組みを進めています。



勝山市が取り組んでいる行財政改革は、行政のコストを下げてその効率を上げることが目的ですが、その結果として得た利益を市民に還元しなければなりません。

したがって、勝山市が節約や節約をして市のお金を貯めたり、借金を減らしたりすることだけが目的ではないのです。もちろん市には貯金（財政調整基金）もありますし、借金（市債）もありますから、適正な貯金を維持し、借金を減らすことは大事なことです。

そのために、全職員が行財政改革に取り組んで市の事業に無駄がないか、もっと工夫して効率よくできる方法はないか、市役所がやらなくても民間の会社に任せられないか、など仕事や事業を見直して無駄を省いてきました。

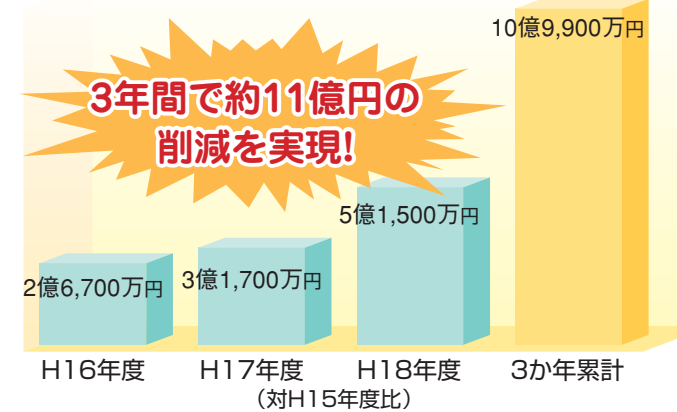
こうして努力した結果、3年間で約11億円ものお金（税金）が節約できたのです。しかし野め込めだけではなく、安全で安心に暮らせる環境の中で、市民が豊かに快適に暮らせる勝山市をつくるために、平成20年度予算に配分しました。

勝山市を再生（ルネッサンス）し、これからも持続して未来へ発展させる投資です。次代のために私たちは、勝山市を「本当にいいまち」にし、「ひと」を育てていかなければなりません。勝山市は行財政改革に取り組み、自分たちの力で「ふるさとルネッサンス」を実現する手ごたえをつかみました。平成24年度の目標年次に向かって更なる努力を続けていきます。

行革による経費削減効果額

行財政改革で管理してきた事務事業266項目中、経費の削減を目的としたものは72項目になりました。そして、平成15年度の決算額と3か年の決算額とをそれぞれ比較した事業費ベースの削減額について、3か年の累計額が約11億円となりました。

主な経費削減項目は下記のとおりですが、市では、これらによる削減効果額を行財政改革でつかった力として活用し、夢のある政策へ投資していきます。



主な経費削減項目

- 人件費の削減（職員数の推移参照）
- 公共交通機関の利用促進に伴う補助金削減
1億1,700万円
乗る運動を進めた結果、えちぜん鉄道の利用促進が図られ、えちぜん鉄道赤字補填額が減少。
- 勝山ニューホテルと温泉センター水芭蕉への指定管理者制度導入
1億3,700万円
両施設の経営を民間に委託して経費を削減。

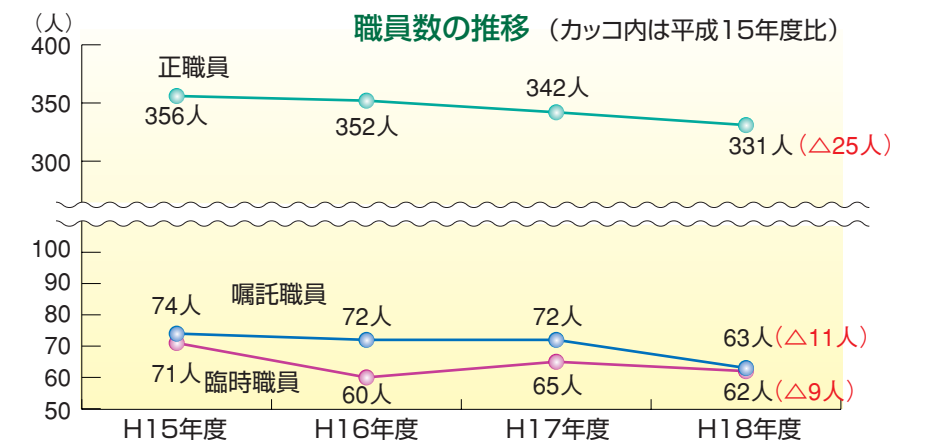
職員数の推移

実施計画では、平成15年4月1日に356人在籍していた正職員を、組織機構の見直しや事務事業の効率化によって9年後の平成25年4月1日には、新規採用を抑制し、304人まで削減することを目標としています。

平成19年4月1日までの3か年で目標の48%、25人の削減を実現しています。

なお、特別職の報酬引き下げ、議員報酬のカット、特殊勤務手当の見直しなどを含む人件費の削減額については、3か年累計で約5億2,600万円となっています。

また、3か年の間に正職員の削減と同時に、嘱託職員を11人、臨時職員を9人、それぞれ削減し、総職員数についても抑制を行ってきました。



「ふるさとルネッサンス」の実現を目指して

勝山市長 山岸正裕